

刊行にあたって

歯科の器材・器具や修復材料等は絶えず進化を続け、機能性と審美修復を兼ね備えた治療が可能になっています。マイクロスコープを使った精緻な治療も可能になり、患者と術者のストレスも軽減されつつあるようです。しかし一方で、修復前の準備や接着操作に不備があったり、材料の物性等を十分に理解せずに治療を行い、補修が必要になることもあります。また、治療後に修復物等の扱いやメンテナンスの方法を十分に説明せず、患者さん任せになり、不具合が生じることもあります。

本増刊号では、修復物や補綴物をいかにして長持ち（Longevity）させるか、そして歯科治療の「Re」（やり直し）をいかにしてなくすか、そのためのポイントやテクニックをご解説いただいております。また、補修が必要になった場合の効率的なリペア法、テクニックやアイデア、おすすめ器材や材料などもご紹介いただきました。

患者さんとの信頼関係を維持するためにも、確実な手技を身につけておく必要があると考えます。本書が、日常臨床のトラブル解消の一助となれば幸いです。

2015年10月
編集委員一同